

保護者のための

カブブック



保護者の方々とともに

カブスカウトのこと、どれくらい知っていますか？

この冊子は、よくわからない、少し心配だという思いでいらっしゃる保護者の方々が少しでも、カブスカウト、ボーイスカウトのことをご理解いただくことをめざして作成しました。

ご家庭でお読みいただくだけでなく、保護者会などで、皆でワイワイとご自身の子育ての話をしながら、手に取ってみる。そんな使い方はいかがでしょう。

カブスカウト、ボーイスカウトの活動で得たスキルや体験は、すぐに成果が目に見えるものではありません。でも、これでよいのかな？と待つことが少し不安になった時には、この冊子を読み返してください。

カブスカウト隊といっても、地域によって、隊の規模もさまざまです。もちろん、保護者の方々の、カブスカウト隊への応援のカタチ、支援体制もそれぞれ違ってはいますが、子どもたちを見守ってくださる、保護者の皆さんのお役に立てればうれしいです。

最後（巻末）には、カブスカウトでがんばることをお子さんとお話して書き込めるページを用意しています。ぜひ、ご活用いただいで、今後のスカウト活動が親子で楽しく取り組めるよう願っております。



目次

保護者の方々とともに

基本編 2

- 1. カブブックの使い方 2
- 2. 制服について 4
- 3. 隊や団とは 6

応用編 8

- 1. 我が子について知ろう!! 8
- 2. カブスカウト隊では、どのように成長する？ 9
- 3. 保護者の方へ 11

発展編 14

- 1. ボーイスカウト隊に向けて 14
- 2. 先輩保護者さんからの声 16

もっといろいろおしえて! 18

私の隊のページ 22

おわりに 24



基本編

1. 『カブブック』の使い方

カブスカウトは、小学3年生から5年生を対象としています。「自分のことは自分でする」「みんなでルールを作って仲良く遊ぶ」「自然や社会とふれあうこと」といった目標を通じ、自立心や創造力を身につけます。

そのカブスカウトたちが、年齢や段階に応じて身につけるべき内容について、自分なりのペースと方法で取り組めるように作られているのが『カブブック』なので、やり遂げた後の『カブブック』は、お子さんの成長の軌跡なのです！

カブスカウトになると『カブブック』を通じて、さまざまな進歩課目（年齢に応じて身につけてほしいことや知ってほしいこと）に挑戦します。チャレンジ章では、一人ひとりが興味のあるものにどんどんやる気をもって取り組んでいきます。これらを身につけるには集会に参加するだけではいけません。ご家庭で保護者に認めていただき、サインをいただく課目もあります。

ぜひご家庭でお子さんと一緒に『カブブック』を眺め、話をし、励ましながら取り組んでいただけたらと思います。

家庭と集会のどちらかで行う課目



のしるしのあるものは、家庭と集会のどちらでもできる課目です。家庭で先にやったら保護者から、集会で先にやったら指導者から、はじめにサインをもらいます。

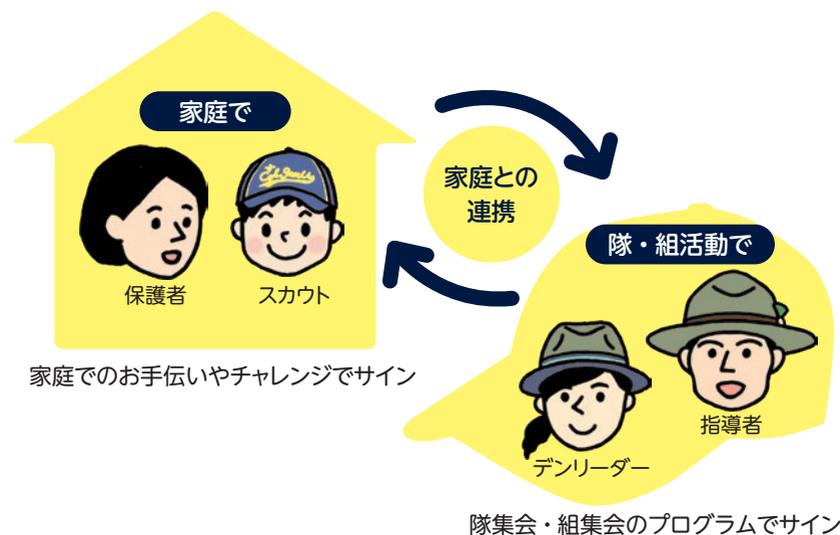


各年齢に応じた『カブブック』

興味に応じ自分で選んで挑戦する『カブブック チャレンジ章』

前のページでもお伝えをしましたが、カブスカウト隊での活動は、集会だけではなく、家庭と連携をすることにより相乗効果が生まれます。

ご家庭では、自分のことは自分でできるよう見守り、サポートをしていただきたいと思います。



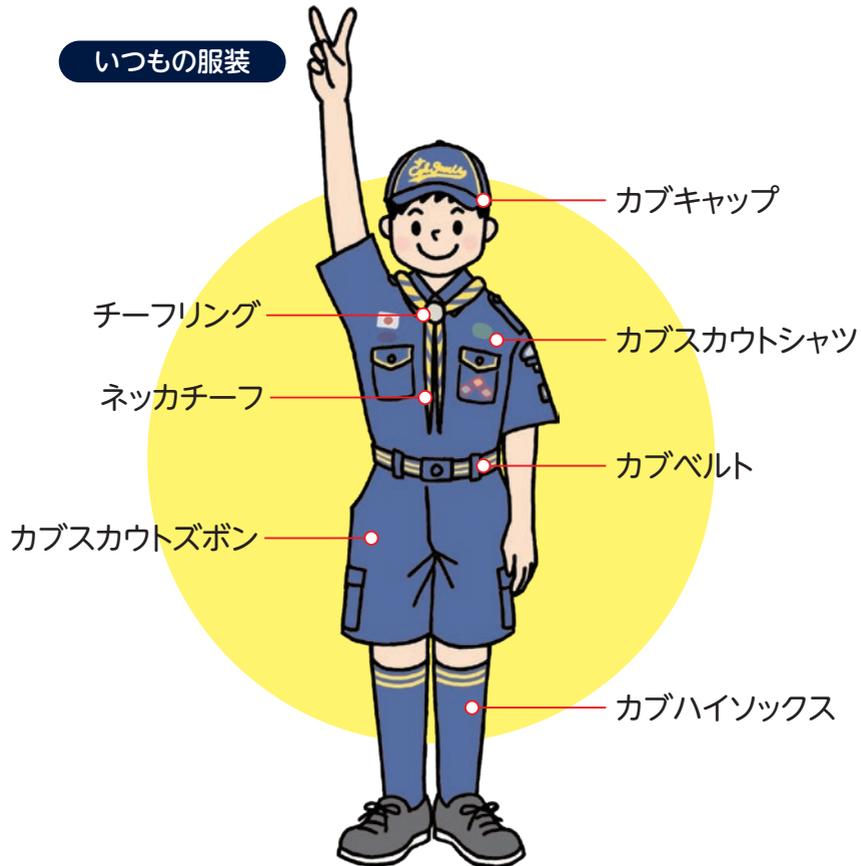
2. 制服について

カブスカウトの制服です

次の図はカブスカウトの代表的な制服です。日本全国の仲間が同じ服を着ています。ネッカチーフは団によって独自のものをつけている場合もあります。

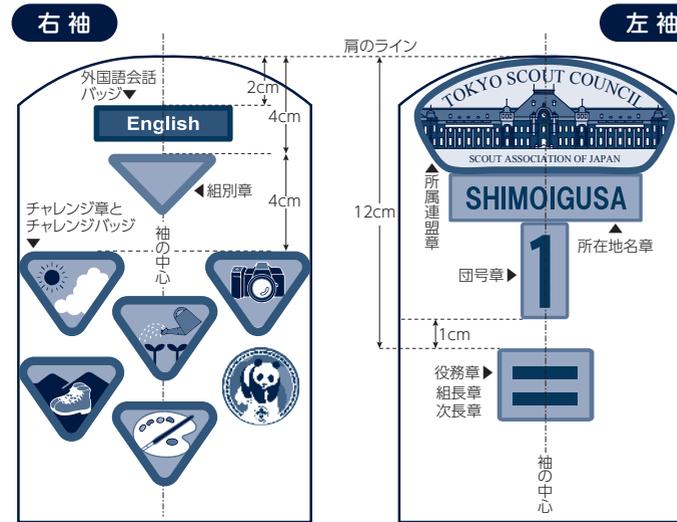
靴は特に定められていませんが、活動しやすい靴を履くようにしてください。長袖のカブスカウトシャツ、長ズボンのカブスカウトズボンもありますので、どちらを着用するか皆さんの団にご確認ください。

いつもの服装



記章類の付け方

制服に記章をつけてください。つける場所は図を参考にしてください。

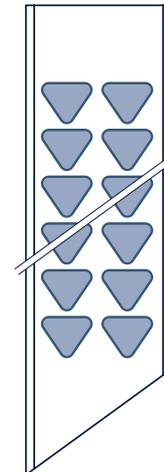


左肩につける所属連盟章は、各都道府県によりそれぞれ特色のあるデザインになっています。例えば、福井連盟では「発掘された恐竜」、京都連盟だと「五山送り火」、岡山連盟は「桃太郎」など、皆さんの街のシンボルやゆるキャラなどがデザインされています。

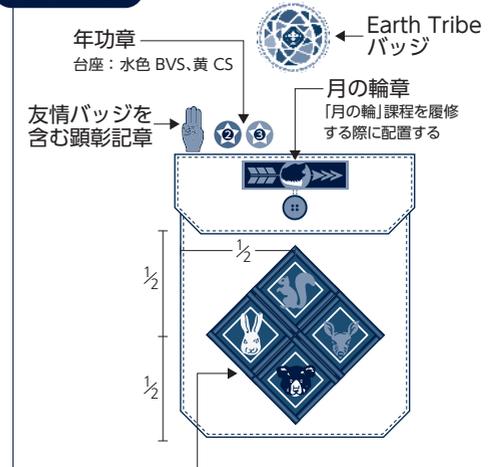
右袖に付けるのは最大6個まで、5個目以上からは袖から外してたすきにつけることができます。服の大きさやバランスによって2列か3列に並べます。

たすき

たすきを着用する場合は、右肩から左向き下にかけてます。
オモテ



左ポケット



りすバッジ・進級記章
りす、うさぎ、しか、くまの記章を修了時につけます。取得していない場合は、その場所をあけて配置します。

チャレンジ章

チャレンジ章は、年齢に関係なくいつでも、どの課目から始めても良いです。時折、お子さんと「カブブックチャレンジ章」を眺めていただいて、始められそうなところからチャレンジしてみてください。

1. 社会生活



2. 自然と野外活動



3. 技術



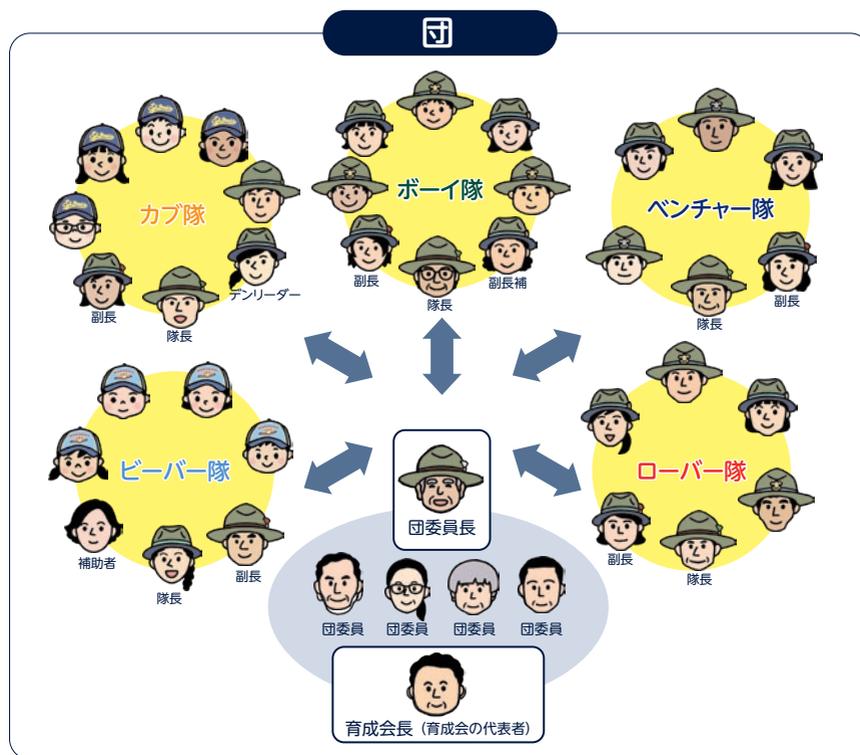
4. スポーツ



5. 文化・趣味



3. 隊や団とは



ボーイスカウト運動における成人の役割

隊の指導者



- ・プログラムの立案、展開、実施
- ・隊集会や行事の主宰とスカウトの指導
- ・隊の運営（登録、会計、記録、事務処理など）
- ・副長、デンリーダールなどの育成や支援



- ・隊長を補佐し、分掌された任務を行う



- ・カブ隊長や副長と協力して組活動を推進する
- ・家庭でのカブスカウト活動のために保護者を支援する

隊の運営・スカウトたちへの直接的な支援



応用編

1. 我が子について知ろう!!

ビーバー隊



カブ隊



ボーイ隊



ボーイ隊になると
身につくこと

- ・自分の役割に気づき、責務を果たす。
- ・先を見通して、計画的に物事を進める。
- ・人生に有用な知識と技能を習得する。
- ・自ら考え、判断し、決断する。
- ・自分のもつ課題を知ったり、特性を伸ばしていく方向を見出す。
- ・フェアプレー精神や強い正義感、各自の信ずる神仏に対する信仰心を養う。

ベンチャー隊



ベンチャー隊になると
身につくこと

- ・ボーイ隊の時より、さらに行動範囲が広がり、活動もアグレッシブになる。
- ・自分の得た知識や体験、技能はさらに広がりを見せ、深まっていく。

ローバー隊



ローバー隊になると
身につくこと

- ・ほとんど成人と同じように成熟し、視野も地域から世界へと広がる。
- ・「社会や世界の課題」に挑戦し、自分自身の将来の目標や社会との関わりについて考え、行動していく。

こんな子に育ってほしい!!

さて、ご自分のお子さんを小さい頃から振り返ってみていかがでしたでしょうか。体と共に心の面や考える力など、成長を感じられたのではないのでしょうか。さらに、10歳～15歳という思春期の時期をボーイスカウト隊で過ごすこととなります。まだ、気が早いかもしれませんが、ここではお子さんの将来を考えてみましょう。将来、どのような子に育ってほしいとお考えですか？また、どのような力を身につけてほしいですか？次の欄に自由に書いてみましょう。

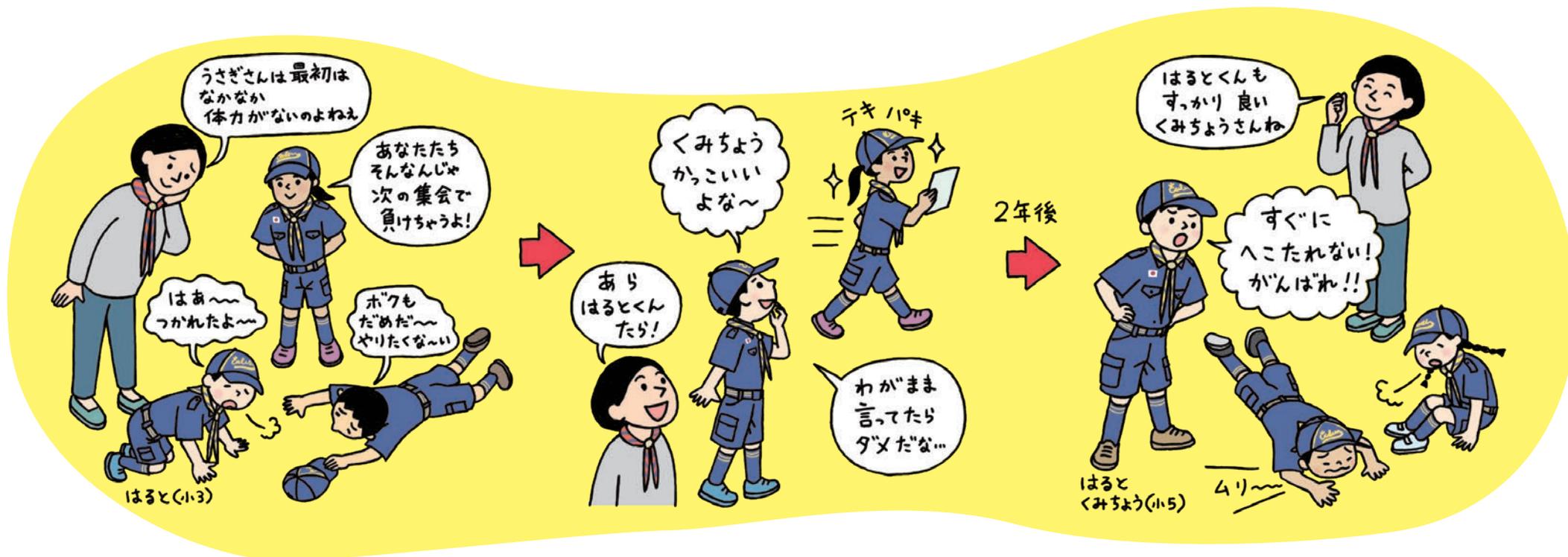
例 思いやりのある子・自分に自信がもてる子・友だちを大切にできる子・社会で自立できる子・自分らしさのある子・目標を達成する力のある子・人に迷惑をかけない子・リーダーシップがある子・忍耐強く最後までやり切る子

お子さんの様子について自由に書きこんでみましょう。

2. カブスカウト隊では、どのように成長する？

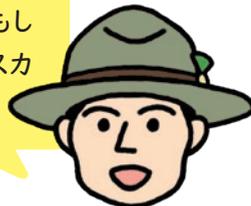
小学校3年生から5年生までの中～高学年の間をカブスカウトとして過ごします。発達段階には個人差がありますが、低学年の頃から比べて、なんでも自分でやりたくなる頃ではないでしょうか。ただし、自分でやってみるものの、失敗をし、やりっぱなしになったり、時には怒られたり、まだまだ手のかかることも多いかもしれません。このように、この時期は親から少し離れて、自ら恐れずになんでも挑戦することを積極的にやり始める頃です。また、共通の趣味を通じて、小集団の友だちのグループを作り、自分たち特有の暗号を作ったりするのを楽しみ始めるでしょう。

カブスカウト隊では、そのような特性を理解し、「デン(組)」で行う活動や、その組がいくつか集まった「パック(隊)」で行う活動があります。1つの組だけでなく、他の同じような組と一緒に活動することでデン全体の競い合いが始まり、より有意義で活発になります。組の中では、デンリーダーがデン全体の保護者役となり、デンの活動を見守ります。デンリーダーはそのデンにいるスカウト全員の保護者役となりますが、自分の子以外に他の子にも愛情を捧げてくれます。なので、スカウトも自分の親とは違う、けれど、少し甘えさせてもらっても良いデンリーダーがいることで、居心地よく安心して活動ができます。「デン」というのは、英語で「動物のねぐら(巣)」という意味があります。そういう意味でも子どもたちは自分たちの秘密基地のような巣で、思いっきり活動する楽しみを味わうことができるのです。



3. 保護者の方へ

カブスカウト隊では、保護者の方が集会に参加されることは少なくなるかもしれませんね。そこで、集会が終わってから、1分でも良いので、子どもたちに「今日の集会はどうだった？」と聞いてあげて欲しいのです。めんどくさがって答えない子もいるかもしれませんが、保護者に興味をもってもらえると、スカウトたちも喜ぶと思います。



隊長



デン（組）集会では、隊長ではなく私がメインに活動の見守りをしています。もし、心配なことや困ったこと、質問などがあれば、私に声をかけてくださいね！私もいろんな子どもたちがいる中で、活動をさせてもらっているのは楽しいです！別の目線で我が子を見られることも楽しみの一つです。



デンリーダー



副長



私からは、保護者の方へお願いしたいことをお伝えします。

- 持ち物の準備、片付け、カブ弁[※]の用意
- 制服への記章・バッジの縫い付け
- カブブックへのサイン

家の中のどこに片付けるか考えたり、一緒におにぎりを握ったりなどしていただくと、徐々に自分でもできるようになります。そして、大事なことは家の中でも取り組めるプログラムを実践していただくことです。可能な限りご協力ください。

※「カブ弁」とは、おにぎり弁当を示す隊が多く、大きさや具材は隊によってさまざまです。

保護者の皆さん、カブスカウトの活動は、とても楽しいものです。まだまだ素直さやあどけなさが残るこの時期に、生意気なことも言うでしょう。威張ったりもしながらも、時には親に甘えてくるこの時期をしっかりと見逃さず、甘やかすのではなく、甘えさせてあげてくださいね。そして、保護者の皆さんも一緒に活動を楽しんでください。親も一緒に成長する大きなチャンスです！



団委員長



発展編

1. ボーイスカウト隊に向けて

ボーイスカウト隊への上進に向けての希望

スカウト運動は創始者ベーデン・パウエル の理念に基づいた一貫教育（※8～9ページ参照）を推進しています。

カブスカウトは、ボーイスカウトの前段階ではありますが、通過点ではなく、その時々 に身につけてほしいことがあります。

しかしながらカブスカウトは小さなボーイスカウトではありません。

ボーイ隊に上進すれば、新たな活動が広がります。

一番の違いは“スカウトの自治”です。ボーイ隊は複数の班から構成され、それぞれの班は班長を中心に活動します。

活動内容は、班や班長で話し合って決定します。

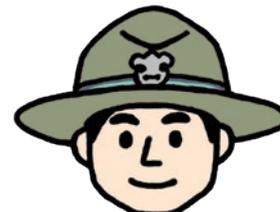
「ちかい」と「おきて」を行動規範として好奇心と冒険心を抱いて大自然の中で、自身の責任を果たし、神仏に感謝し、仲間とともに技能を磨きます。

リーダーシップとフォロワーシップを身につけ、国際組織の一員として国際理解について学ぶ機会もあります。

キャンプ、ハイキング、野外料理などを通して、野外でも自分たちで生活できる知識と技能、強い精神力を培います。

目指しているのは“より良き社会人”になること。

「そなえよ つねに（備えよ常に）」がモットーです。



ボーイスカウト隊への上進に向けての不安

Q 「中学生になると、習い事、学業やクラブ活動などが忙しくなります。スカウト活動に支障が出ないでしょうか？」

A 確かに成長するにつれ、さまざまな制約と興味で、やりたいことや成さねばならないことが多くなることは事実です。
大いなる好奇心を満たし、将来の夢に向かってやりたいことのすべてをこなすためには…
①周りの協力と理解 ②自分の努力 ③環境 ④工夫が必要です。
それらをやり遂げることにより、「より良き社会人」になるのです。
工夫をこらし、あきらめることなく進んでほしいものです。

Q 「思春期の子ども様子や、気持ちが見えません。」

A はい、そのために指導者や先輩、仲間がいます。
思春期の不安定な青少年の心をしっかり掴み、見守ることのできる、頼れる隊長や先輩、仲間がスカウトを待っています。
スカウトにとっても、保護者にとってもよき相談相手となることでしょう。
スカウトの健全な成長のために、指導者も日々研鑽を積んでいます。

2. **先輩** 保護者さんからの声



一人っ子の息子が…

息子は、一人っ子で甘やかされて育ちました。家族では彼が中心で、息子の意のままになっていました。

そんな息子が、ボーイスカウトの活動の中で、先輩スカウトの指示に従って野外料理の手伝いをしたり、テントを張る助けをしている姿をみてうれしくなりました。年齢が上がって、彼が上級生になると今度は新人隊員の面倒をみて指導しています。周囲の人たちに気を配り、行動できるようになった息子を頼もしく感じています。

女子ですがボーイスカウト？

娘は女子ですが、ガールスカウトでなくボーイスカウトで活動しています。入団の際に「どう違うのか？」よくわからなかったのですが、どちらの活動にも見学にいかせていただきました。活発で体を動かすことが大好きな子でしたので、娘の意向を尊重してボーイスカウトに入団しました。「周りは男の子で大丈夫かしら？」心配で何度も活動に見学へ行き、隊長さんともお話ししました。保護者としてできるお手伝いもしました（ハイキングの見守りや、餅つきの補助）。

その結果、家庭では得られない貴重な体験を得ることができました。ボーイスカウトで活躍する女子として娘はイキイキと活動しています。



ジャンボリーってすごい！

ボーイスカウトに入った限りは、「ジャンボリーに行きたい」と我が子。何ですか？それ…。

なんでも、4年に一度、日本中のスカウトが一か所に集まって長期間キャンプをするらしい。

それに行くためには2級スカウトにならなきゃ！と張り切る我が子。県全体で派遣隊なるものが編成され、どうやら海外からのスカウトも大勢やってくるらしい。つまるところ日本に居ながらにして国際交流ができるってことか！何か月も前から訓練キャンプなどの準備が始まるそう。

そして、大きなザックを背に、日に焼けた我が子が帰ったときその精悍な表情にドキッと。

たったの10日間でこんなに成長するなんて、何があったのだ、ジャンボリー。日本連盟のウェブサイトで見よう。

障がいがある子です

生まれつき障がいがある長男でした。姉がガールスカウトに入っていたので、「僕もボーイスカウトに入りたい」と希望し、姉と同じ場所で活動しているボーイスカウトの団に相談しました。私たちの心配もよそに隊長さんは笑顔で「大丈夫ですよ！スカウト運動は『すべての人に開かれる』の原則があります。どのような障がいがあれども入団できますよ！」と応えていただきました。同じ学年のお子さんと同じ運動ができないこと、精神的にも幼いことなどをお伝えして入団することにしました。カブスカウトから始まり、現在、ベンチャー隊で活動しています。

彼のできることをできるペースで導いていただいたことにとても感謝しています。



もっといろいろおしえて!



保護者の負担ってありますか?

13ページの副長も言っていました、持ち物の準備・片付けやカブ弁の準備のお手伝いをお願いします。ご家庭の中で、カブスカウトで使用するものの場所を決めてあげると、準備・片付けも自分でできるようになってくると思います。

また、活動を続けていくと、進級記章やチャレンジ章など、さまざまな記章をもらいます。一つひとつ制服につけていくことで、世界にただ一つの自分だけの制服を作り上げることができます。

2、3ページでも示したように、カブスカウトは、集会でのプログラムと家庭内でのプログラムの両方を合わせて、体験・成長していきます。カブブックにも各家庭にて取り組む内容が盛り込まれています。どうぞ、ご家庭の中でも楽しみながら支援をいただき、履修のサインをお願いします。

さらには、10、11ページでも触れましたが、カブスカウトの基本の活動単位はデン（組）です。このデンの活動を見守っていただくのが、デンリーダーです。子どもたちとの活動を楽しんでもらえるのなら、どなたでもデンリーダーとしてご活躍いただけます。「ごく普通のパパですが、多くの子どもの成長に携わることができるのは、貴重な経験でした。」とのお声もいただいております。



カブスカウト隊で大事にしていることはなんですか?

カブスカウト隊で大事にしていることは、カブスカウトの「やくそく」とカブ隊の「さだめ」です。

カブスカウトの「やくそく」

ぼく（わたくし）はまじめにしっかりやります
カブ隊のさだめを守ります

カブ隊に入るときには、この「やくそく」をしてから仲間入ります。このことは、今後の活動を共にする班の仲間に対しても、また日本中、世界中の仲間に対しても、自分の決心を表します。また、制服を着ている時も、着ていない時も「やくそく」をしたんだという気持ちをいつももてるように心がけます。

カブ隊の「さだめ」

1. カブスカウトはすなおであります
2. カブスカウトは自分のことを自分でします
3. カブスカウトはたがいに助けあいます
4. カブスカウトはおさないものをいただきます
5. カブスカウトはすすんでよいことをします

カブ隊の「さだめ」は、組の仲間とお互いに守り合い、高め合えるようになっていきます。グループ内での自立→相互協力→リーダーシップ→社会性^{かんよう}の涵養と徐々にその視野を広げながら、成長を促していきます。





活動は、ずーっとビーバーと同じようなもの？ カブ、ボーイでも一緒？

ビーバー隊では、集会の間も保護者の方に同伴していただいて、皆さんが見守られる中で活動をされてきたかもしれませんね。それは、その年代にとって安心でき、必要なことだったと思います。ですが、カブの年代になってくると、少しずつ親から離れ始め、自分でできることの喜びを得始めます。「自分一人だって、こんなことができるんだ！」という自信をつけ、さらにいろんなことに挑戦し始めます。そのような集団のために、デン（巣）があるのです。ボーイスカウトになると、さらに自立が進み、自分のことを客観的に評価したり、冷静に俯瞰して見るができるようになるため、自分たちの行動についても調整ができるようになります。例えば、自分たちで1年間のプログラムをどのようにしたいかなどの計画をたて、実行していくなどです。

ボーイスカウト以上になると、4年に1度、日本全国から集まるキャンプ大会（日本スカウトジャンボリー）や世界で開催されるキャンプ大会（世界スカウトジャンボリー）に参加することができます。そのほかには、全国スカウトフォーラムや日本アグリーナリーなど、さまざまな規模や地域での大会に参加する機会があります。



塾や部活と両立できますか？

両立できます。まずは、これまでの話でお察しかもしれませんが、カブスカウトやボーイスカウトには、「～年生は、ここまで習得すべき！」などのノルマのようなものはありません。また、何か重要な試験があるというものでもないの、安心して活動に参加してください。

小学校高学年になると、受験を考えるお子さんもおられるでしょう。また、中学校に入ってから、部活動に一生懸命になられるお子さんもいると思います。ボーイスカウトでは、そのように自らの道をしっかりと歩めるように育てていますので、それはうれしい限りなのです。塾や部活などで毎回参加することができなくても、私たちはいつでも大歓迎です。また、どうしても集会の曜日と塾や部活動の曜日が重なってしまって、難しいという場合には、どうぞ気軽に相談してください。子どもたちがその時そのときにしっかり頑張ることができるよう、応援しています。

このボーイスカウト活動は、一朝一夕ですぐに何か身につくというものではありません。長い時間をかけ、仲間との体験的な活動を通して、生きる力や、総合的な人間力を養っています。蒔いた種は、すぐに花が咲かないのと同じように、じっくりと長い期間をかけておつきあいをいただければ、必ず綺麗な花が咲きますよ。



もっといろいろおしえて！

私の隊のページ



カブスカウトとほごしゃのやくそく

- カブスカウトでがんばること _____
- 家庭で^{かてい}がんばること _____
- カブスカウトとほごしゃのやくそくごと

年 月 日

カブスカウトのサイン

ほごしゃのサイン

どうぞ、いそがず おつきあいでください

最後まで、お読みいただきありがとうございます。

新たな発見があった、少しわかったと感じていただけましたらとてもうれしいです。

カブスカウト、ボーイスカウトは、1回ごとの活動の様子を見ただけでは、その教育目標やプロセスがわかりにくいものです。しかしながら、この冊子を最後までお読みいただいた皆さんには、続けることでしか得られない「生きていくために必要な“力”をつけることの意味」にお気づきいただいたのではないのでしょうか。

ぜひとも、カブスカウト、ボーイスカウトのその先の、ベンチャースカウト、ローバースカウトへと、子どもたちが成長していく様子を、温かく見守りご支援くださる応援団となっていただければ何よりです。

保護者の皆さんとともに、カブスカウトとなった子どもたちの成長を、皆で見守ってまいりましょう。

保護者のためのカブブック

2023年3月24日 初版発行

発行  公益財団法人
ボーイスカウト日本連盟

〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3

電話：03-6913-6262(代)

FAX：03-6913-6263

URL：<https://www.scout.or.jp>

制作 株式会社トライ

Printed in Japan

©2023 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

本書の記述内容・図版等を無断で転載、複製することを禁じます

2303トB4NPEUHFUE



な
ま
え



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN